

2016 年度より編集委員を仰せつかりました、東北大学の内藤 剛と申します。私が外科医として今日まで学んできた道のりは、まさに内視鏡手術が誕生し普及してきた時代そのものだと思います。外科医として初期研修をスタートし、開腹手術が当たり前だった時代に腹腔鏡手術を初めて見た時の衝撃は今でも忘れることができません。まさにハンマーで頭を殴られた様な衝撃でした。大げさに言えば黒船を初めて見た幕末の人たちのそれと同じと言っていいでしょう（黒船は見えていないので分かりませんが……）。それと同時に、何と外科医にストレスの多い手術だろうと思ったのも事実です。ましてや当時は機材も各メーカーとも開発の途上で十分とは言えなかった時代でした。そんな中 1995 年にアメリカに渡って初めて見たのが臍頭十二指腸切除術の腹腔鏡下手術でした。当時の私にしてみれば開腹でもしたことがない手術です。それを腹腔鏡でするなんて、クレージーだとは思いませんでした。カメラ持ちをしているとさすがに手が痺れてきて最後には手の震えが止まらなくなったのを覚えています。さらには副甲状腺の内視鏡手術。皮下に送気して内視鏡をいれて手術をする？意味がわかりませんでした。さらには病的肥満症に対する胃バイパス術です。日本では絶対に必要のない手術だと思っていました。ところがそれから 20 年余りがたち、それらの手術は今日では日常的に内視鏡手術で行われるようになってきました。この内視鏡外科学会雑誌にもたくさんの新しい手技や工夫、さらにはそれらの成績が報告されています。日本人の繊細で緻密な技術は内視鏡手術に非常にマッチしているのだと思います。さらにはこの手術を黎明期に安全に普及させて来られた多くの先達の努力のおかげだと思います。

もうすぐアメリカ内視鏡外科学会 (SAGES) がヒューストンで開催されますが、日本からの参加者は年々増加していると聞いています。今までは、新しい手術は海外から教えてもらい日本で工夫して普及させて行った時代でしたが、これからは我々日本の外科医から新しい手技やエビデンスを世界に向けて発信していく時代になっていくでしょう。これからの 10 年で我が国の内視鏡外科がどのように発展していくのか非常に楽しみです。

(内藤 剛)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第 22 巻 第 3 号) 2017 年 5 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1 部) 定価：本体 2,800 円 + 税 * 会員には毎号送付されます。

2017 年 年間購読料：冊子版 16,380 円 + 税、電子版 (個人) 16,380 円 + 税、冊子 + 電子版 (個人) 19,380 円 + 税 (配送料：医学書院負担) * 会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。

編集・発行：日本内視鏡外科学会 (代表：渡邊昌彦)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル

日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1257 E-mail: info-jses @ convention.co.jp (担当：池田，小倉)

<http://www.jses.or.jp>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2017, Printed in Japan

発 売：(株)医学書院 (代表：金原 優) (本誌担当：水野，安部) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses @ igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

- ・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は日本内視鏡外科学会が保有します。
- ・JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(株) 出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

●原著

腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TAPP 法）総手術時間からみた

高難度症例の検討久下博之・他 奈良大腸肛門病センター大腸肛門科
閉鎖孔ヘルニア嵌頓症例に対する緊急腹腔鏡下手術の検討大山健一・他 能代厚生医療センター外科

●症例報告

傍卵巣嚢胞捻転と卵管捻転を同時に伴った 1 例楯川幸弘 佐久総合病院佐久医療センター小児外科
腹腔鏡下に摘出した巨大胃石の 1 例岩瀬亮太・他 国際医療福祉大学病院消化器・一般外科
高度肥満症患者の外傷性腹壁ヘルニアに対し腹腔鏡下修復術を行った 1 例今村清隆・他 手稲溪仁会病院外科
続発性会陰ヘルニアに対して腹腔鏡下修復術を行った

1 例荒川 敏・他 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院消化器外科
食道胃接合部へ達する胃大型 GIST に対して腹腔鏡下胃局所切除術を施行した

1 例垣内慶彦・他 庄原赤十字病院外科
妊娠 32 週目に発症した切迫流産を伴った急性虫垂炎に対して

腹腔鏡下虫垂切除術を施行した 1 例岩村宣亜・他 神戸市立医療センター中央市民病院外科

●手術手技

牽引糸を駆使した単孔式腹腔鏡下結腸切除術における体腔内吻合加藤航司・他 沖縄協同病院外科
成人鼠径ヘルニアに対する Transabdominal preperitoneal repair (TAPP) 法

におけるパリテックス™ ラップ プログリップ™ メッシュ展開法の工夫須藤隆之・他 盛岡市立病院外科

●私の工夫

スマートフォンを用いた胸腔鏡トレーニングボックスの作製と胸腔鏡手術

トレーニング関村 敦・他 新武雄病院呼吸器外科

但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。